

---

Days

ゼウス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Days

### 【Nコード】

N9551V

### 【作者名】

ゼウス

### 【あらすじ】

平凡な高校2年生富井雄也。

甘酸っぱくも輝いてもない高校生活に飽き飽きしていた彼はある奇妙な世界にいざわれることとなる

ブラックな面も青春な面もある物語です!!

## プロローグ：リアルの世界の中ってやつは（前書き）

ものすごいトリックがあるわけでも号泣できるわけでもない。  
そんな作品です

でも、多くの人になんとか読んでもらえたら嬉しいです

## ブローグ：リアルの世の中ってやつは

世の中は平凡だ

別に中二病なことを言いたいわけじゃない  
かっこつけてるわけでもない

世の中は平凡だ

ただそれだけのことだ

急に王様からメールが来て殺戮ゲームが始まるわけでもないし

1人の男が転校してきてが野球部を作って甲子園に行くわけでもない

3

100歩譲ってそんなことは不可能だとしよう

てか、そんなことがあり得るわけがない

にしても世の中って退屈じゃないか？

高校生活ってこんなに退屈なものなのか？

いつからか知らないがこんなことばっか考えている

なんかマンガやドラマみたいなのが起るなんて思ってない

せめて青春マンガみたいな日常が

気の置けない仲間たちとまさに青春の真っただ中

そんなことすらないのが現実だ

誰かが特別なんじゃない

みんな大概はそういうもんなんだ

俺、<sup>とみいゆうぢや</sup>富井雄也は平凡な人間だ  
何か特別な才能は持つてない  
特技は？とかこれだけは誰にも負けないというものは？  
とか聞かれると困つてしまう  
そんな人間だ

一応、人並みにできる  
勉強なんて最低限しかしないけど都内有数？の進学校だし  
スポーツは何にしても人よりできる  
ルックスだってイケメンとも言われなくはないレベル  
その他諸々なんでもそれなりにはできる自信がある

けど、これはというものがあるのかって言われると困る  
なんでもできる人とか言われると困る

大企業の御曹司で  
道を歩けばスカウトされるほどのイケメンで  
成績は常に学年1位で  
スポーツは何をしても1番で

そんな少女マンガの王子様みたいなものには到底及ばない  
そのくらいの人間

## プロローグ：リアルの世の中ってやつは（後書き）

この作品を読んただきありがとうございます

よかったらコメント、レビューよろしくお願いします  
厳しい意見も小説を書く原動力になりますので

## 第001話：学校生活

雄也の1日はケータイのアラームの音で始まる

もちろん、目覚めは悪い

毎日睡魔と闘いながらなんとかベッドを出る

鳥のさえずりで爽やかな目覚めなんぞは人生で一度たりとも経験したことはない

そしてパンを気合で1枚食べ、駅へ向かう

おっさんの波に流されながらなんとか学校へ

ちなみにここが一番つらい

おっさんの集団に寿司詰めになつての30分の登校は尋常じゃなくつらい(笑)

教室に入り席に着くと真つ先に原島健太はらしまけんたがいつもの調子で声をかけた

「雄也、昨日の新條ユイ見たか!？」

「んなもん知らねーよ」

新條ユイとは俺らと同じ年のアイドル

まあ人気はある

健太のお気に入りの中の1人だ

分かると思うが、健太はこの類の話が好きだ

毎日こんなテンションで喋っては女子の失笑を買っている

雄也は嫌いなわけではないが、健太の話を適当に流す

なんでこいつはこんな堂々としているんだろうと思ったりする  
AVの感想や、朝立ちしたただのを大声でしゃべる  
明るい性格なのでみんなから好かれているが女子にはやや敬遠され  
てる部分もある

\*\*\*\*\*

やっと授業が終わった

寝た記憶と、健太の下ネタがうるさかった記憶しかない…  
全くなんと中身のない高校生活なんだろう

部活は入ってない  
というよりはもうやめた

サッカー部で2年次からレギュラーで期待されていた  
ただ、ふと何が楽しいんだろうと思っただのがきっかけだ  
いくら頑張っても結局強豪私立に負ける

1つの経験でサッカーがつまらなくなった  
同じようなことを繰り返した結果、部活に意義を見いだせなくなった

その程度で努力をやめるのは腰抜けなのかもしれない  
それでも諦めず努力する人間が偉い

世間はそう言うだろう

ただ、一度離れた気持ちに戻ることはなかった

第001話：学校生活（後書き）

この小説を読んでいただきありがとうございます

よかったら感想・レビュー下さい  
作者の原動力になります

## 第002話・芽生え

「これ万引きしてきたんだよねー」

「マジで!?!それヤバくね!?!」

「いやー、ちよろい、ちよろい。見張りつけてばれないようにカバ  
ンの中に入れてれば余裕だつて」

「まじかー、俺もやってみるわw」

「じゃあ今度行こうぜw」

馬鹿なやつらがくだらない話をしている  
犯罪をしているというより  
幼稚なをしているのが馬鹿らしかった

自分ならもつとできるのに  
そう思うことが多々ある

万引きなんて陳腐なものじゃない  
もつとすごい何かを

最近そういう考えがふと頭をよぎることが多くなってきた  
自分は犯罪がしたいのだろうか

いや、違う。  
いや、違わないかもしれない。  
そんなことの繰り返し

自分の存在ってなんだろう  
ふと気づいたら裏路地へ出ていた  
学校から少し離れたところにある道

この道に関しては夜中になると街灯もなく真っ暗になることもあって  
色んな噂が飛び交う

夜の2時になると口裂け女が現れるとか  
昔、切り裂きジャックの10夜連続殺人事件が起こったとか  
そんな嘘くさいものから

1日歩いてたら必ずヤンキーに絡まれるとか  
ホームレスに襲撃されるとか  
あり得るような気もしないでもないものまで

そういえば健太が肝試しに行こうって言ってたっけ

少し嫌な匂いがしたが構わず進んでいくと  
怪しいスーツのおっさんがいた  
ホームレスがいた  
風俗の呼び込みがいた

そのときだった

「ちょっとそのあんなちゃん」

**第002話・芽生え（後書き）**

この小説を読んでいただきありがとうございます。

よかったですら感想など下さい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9551v/>

---

Days

2011年11月16日15時37分発行